

令和5年度 ちゅーりっぷハウス自己評価まとめ

令和6年3月22日

ちゅーりっぷハウスでは、今年度の重点目標としてかかげた以下5つの目標に対して、全職員で振り返りを行いました。来年度に向け、今年度の反省点を改善しながら保育の質向上に努めていきたいと思いません。

重点目標1、子どもが心から楽しいと思い、笑顔あふれる保育を第一に考える

具体的な取り組み

- ・子ども一人ひとりを観察することで今何に興味を持っているか、どんな気持ちなのかを職員間で共有し保育内容や対応を考えた。
- ・職員間のコミュニケーションを十分にとり、職員同士が笑顔でいることで自然と安心感が生まれ子どもの笑顔があふれていた。

改善点

- ・職員も環境の一部ということを考え、声の大きさや態度を考える必要がある。
- ・保育内容や環境は、毎日ありきたりのものにならず新しいものを取り入れていく。

重点目標2、専門知識を生かしながら、子育てに対する悩みに対応し子どもの成長を保護者と共に喜ぶ

具体的な取り組み

- ・送迎時や連絡帳にて一日のなかでの楽しいエピソードを伝えながら、保護者と共に笑い合いホッとできる時間をつくるように心がけた。
- ・調理員も積極的に保護者との関係が深められるよう、言葉を交わしたり相談には丁寧に応えるようにした。
- ・保護者の悩みなどは、職員間で共有し全職員が対応できるようにした。

改善点

- ・保護者の今の悩みをすぐにでも解決しようと送迎時に話すことが多かったが、子どもにとっては聞きたくない内容もあるため話す場を変える、保護者と面談する時間を設けるなどの配慮をしていく。

重点目標3、職員、保護者、近隣の方など人とのつながりを深めながら社会性を育む

具体的な取り組み

- ・隣接する学童保育とは、避難訓練やハロウィンの行事などで交流ができ災害時にも協力体制がとれる関係となった。
- ・系列園での水遊びや、親睦会は多くの子どもや大人と接することができ、小規模保育では体験できない大きな集団を体験できる貴重な機会となった。

改善点

- ・系列園や連携園と、園庭開放やリズム運動を一緒に体験するなど保育の交流を今以上に増やしていく。
- ・散歩時に積極的に近隣の方に挨拶をすることで、道路横断時には車を止めて渡らせて下さる顔見知りの方もできた。引き続き、挨拶から関係を深め本園を知ってもらい災害時などには助け合える関係を構築する。

重点目標4、飼育や植物の栽培を通し、毎日お世話をすることで成長する過程を知り命の大切さを学ぶ

具体的な取り組み

- ・初めて米の栽培を行った。米になるまでの工程を子どもと一緒に楽しみながら学ぶことができた。改めて、食への感謝を感じられることができた。
- ・調理員と子どもとの交流する機会を増やすことで、食への関心が湧き食べることへの期待が増した。
- ・散歩時には、身近な生き物や自然物に触れられる場所に行き子どもたちの五感を刺激し楽しさへとつなげた。

改善点

- 栽培時のプランターへの水やりを行う機会が少なかった。車通りが激しいため少人数ずつ行うなど工夫していく。
- カブトムシやクワガタの飼育は、動きが見られない時間が多かった。メダカなど動きがあり、毎日お世話できる生き物の飼育も考える。
- 給食で提供されるものに触れたり、調理員が目の前で調理したりするクッキング体験ができる機会を増やす。

重点目標5、あらゆる危機に対して的確かつ迅速に予防、対応できる力を付けられるよう訓練や研修受け意識を高める

具体的な取り組み

- 全職員が救命指導研修などを受講し、知識を得ることができた。
- ヒヤリハットを職員間で共有することで、大きな事故や怪我を未然に防ぎ職員の危機管理意識も高められた。

改善点

- 避難訓練は、更に実際に想定した訓練内容へ変更する。
- 子どもの安全を守るためには職員間での連携が第一なので、常にコミュニケーションを深めていく。実際に災害や怪我・事故が起きたらどう対応するか様々な場面を想定し密に話し合う。

令和6年度重点目標

- 1 五感を刺激し、ときどき・わくわくする保育内容の充実
- 2 保護者の悩みに気づき、すぐに少しでも解決できるよう専門知識を踏まえながらアドバイスしていく。
- 3 栽培を通じた食育や飼育体験を行うことで、大切に育てる気持ちを育む
- 4 系列園や連携園に園庭開放に行くことや、保育を一緒に行うなど交流を深める
- 5 実際に想定した避難訓練を行い、いざという時に臨機応変な対応ができる力を付ける